会報
白日会
第59号
2021.1
白日会事務所

白日会事務所
〒一〇四―〇〇三三　東京都中央区八丁堀四―二―八―二〇二
TEL（〇三）六二八〇―五二一八（FAX兼）
郵便振込　〇〇一九―四―三九八一五七　白日会
HP: http://www.hakujitsu.com
MAIL: hakujitsu-mail@trad.ocn.ne.jp

第96回 白日会展

昨年1月に上陸した新型感染症とその対策による美術館休館の為、第96回白日会展は、彫刻部の不参加と絵画部の一般公開が叶わず、大型巡回展も中止となる事態となりました。

総会・会長挨拶

中山忠彦

皆さん、新型パンデミックの第三波という知らせが来ておりますが、その中で多数の皆さんにお集まりを頂きまして誠に有難うございました。

先程まで、実際に開会は出来ませんでしたが、今年の白日会の展覧会報告や、来年度の白日会展の開催について態度をはっきりとさせる為、常任委員会で話し合いをいたしました。

白日会は研究団体でありますから、世間がどういう状態であろうとも自分の作品を描き、発表する準備をし、開催をするという目的を持って展覧会をしておりますから、その歴史の中で、来年も同じように展覧会を開催するということで話し合いがまとまりました。

今年は、残念ながら一般公開は出来ませんでしたけれども、白日会の研究団体という性質上、各々が会場で自作と対峙し、そこから十分に学んだことと思っておりますし、私自身もまだ未完成の作品を出品せざるを得なかった状態の中で、反省且つ、今後の仕事の予定を考えて参りました。

▲ 休館となった美術館

この度の常任委員会の詳細にあたっては、事務所の寺久保さんがこの後も説明を続けて下さると思います。ただ個人的な事にわたって大変恐縮ですが、今年の1月に大阪の展覧会で参りました折、肺炎を患いまして緊急に入院いたしました。その際、関西支部の受付の皆さんから大変温かな慰めを頂いたり励ましを頂きました。この場を借りて改めて御礼申し上げたいと思います。

副会長就任挨拶

山本眞輔

11月15日の常任委員会と総会によって、山本眞輔常任委員（彫刻）と斎藤秀夫常任委員（絵画）が副会長に就任いたしました。

新型コロナのせいかアトリエにいる時間、制作時間が多くなった。終息が宣言されるのか、ウィズコロナの時代が来るのか、はたまた収束があるのか見通せない不安定な日々が続いている。作家がアトリエで過ごす時間が増えるのは歓迎である。が大勢の人が集まる美術館は如何なものかといわれている。いずれ今までのような展覧会形式ではなく新しい作品発表の様式がでてくるであろうことは想像に難くない。

もうすぐ百年記念展を迎える白日会も大きな重要な節目に来ている。作家ひとりひとりは自分の仕事を大切にいままでの生き方を変える必要はないと思う。テレワーク、オンライン、ワーケーションなどの出現により、パソコン一台をお供に世界中を飛び回って仕事のできる時代になった。目下の状況を冷静に見つめながら、白日会は今後どのような道を進むべきかを考える節目に来ていると思う。

彫刻部会員として副会長を仰せつかった。中山忠彦会長のご指導の下、これからの白日会の充実のためお役にたてればと思っている。

斎藤秀夫

白日会は〝写実の王道を歩む作家集団〟として確固たる地位を築き、間もなく100周年を迎えます。この様な時に副会長という重職を担うことになり、その責任の重さを痛感しています。精一杯努める積りでおりますが、大病を患った後なので、皆様の御協力宜敷くお願いいたします。

第96回展報告

事務所・常任委員　寺久保文宣

第96回白日会展は、世界的、社会的な新型コロナウイルス感染症（COVID―19）の影響により、絵画部のみの開催（彫刻部不参加）、そして一般公開は叶いませんでした。こうした創立以来未経験の事態の中で本第96回展は準備され施行されました。本会報では例年の報告掲載の形式と変えて、コロナ禍においての当会の足跡を社会動向も含め、概略として記し報告としたいと思います。

搬入開始まで

２０２０年（令和２年）が明けた２月に入ると、中国武漢市発生とされる新型コロナウイルスが本邦に上陸し感染拡大が懸念される社会状況であった。１月23日に武漢市が都市閉鎖を行い、１月28日には本邦で初の感染者が認められた。横浜港にて香港からの感染者を載せたダイヤモンドプリンセス号にて２月５日から２週間の検疫が行われ、２月16日、政府の発足した専門家会議による初会合が行われた。翌17日に厚生労働省は新型感染症の相談と受診の目安として「３７・５度以上の熱が４日以上続く」と発表、21日小池都知事より、東京都が主催する飲食を伴う大イベントの３週間の中止が宣言された。

２月26日、安倍首相は、全国的なスポーツ、文化イベントを「今後２週間は中止、延期、または縮小する」と対応を要請、さらに翌27日には全国全ての小中学校などを３月２日から春休みの間、臨時休校にするよう要請した。

それを受けて国立新美術館は２月29日から３月15日までをコロナ対策の為に臨時休館とした。しかし臨時休業期間のバックヤード（美術館B1搬入・審査会場）の使用は許可されており、国立新美術館も臨時休館明けの企画展に向けて準備が進められていた。その頃の国内感染者は海外に比べ低い水準で抑えられていたが、今後の感染拡大が社会的政治的に懸念されていた。後続の美術団体は中止を決定しているところもあった。

この時点において第96回展開催の可能性はあり、白日会中枢は「展覧会は行うもの」という中山忠彦会長の理念のもと、中心的な常任委員の賛同と共に、美術館の閉鎖か行政よりの中止勧告が無い限り第96回展を開催するという方針を採っていた。彫刻部は山本眞輔先生を中心とした彫刻部常任委員により、内外の状況を深く鑑みた上で、決定期限の臨界点であった３月４日、山本先生からの申し出を中山会長が承認し、彫刻部の開催中止を決定した。

なお、12月末には、ポスター、チケット、ＤＭ等の媒体物は印刷されており、１月中旬には各出品者に配布、２月初頭には白日会の招待者に案内が発送されている。また２月中旬には懇親会の中止を決定した。

搬入日以降

３月８日から絵画部では搬入作業が開始された。美術館での準備期間は役割分担の各主任とベテランの会員を中心に、参加の会員・準会員・会友と、また陳列業者の彩美堂と共に、その当時と状況下における入念な感染症対策を取りながらバックヤードの種々業務が進められた。

３月10日、絵画部は審査日初日、審査開始前に臨時常任員会を行い（巡回展支部長の意見も提出）、多面的な討議を経て絵画部の総意として開催に向かい、少なくとも審査（入落・受賞・推挙・選抜）は完遂することを目指しながら、授賞式と会期中イベントの中止を決定した。

また審査期間中に美術館側から会場展示まで可能との確認を経たことにより、陳列まで完遂し休館解除を待つこととなった。また、中山会長と山本先生との協議で、彫刻展示スペースを96回展に限り絵画部に借り受けることや96回展全展示の絵画部のみのＷＥＢ動画制作が、絵画部と彫刻部ともに了解された。

陳列日は最も係りが集まる日であるが、それぞれに状況を鑑みて対策しながらの参加を促す通知を送った。陳列日当日、例年より若干少ない人数にて担当が参加し、恙なく作業は進んだ。瀧悌三、土方明司の両先生も大臣賞選定に出席され、法人寄託賞の法人関係者も参加した。絵画部若手により全作品がビデオ撮影、速やかに編集され３月21日に発信された。また早々に受賞者に対して賞状と賞品を送付した。陳列作業を終え、後は休館解除となる日を待ち続けることになった。

▲　３月10日　一般入選審査風景

社会的には、審査初日10日同日、新型インフルエンザ等対策特別措置法（特措法）の改正法が国会に提出され、3月13日に成立、14日から施行された。世界保健機構（WHO）は11日に、3月上旬、スペインやフランスなど欧州広範囲にさらにアメリカで感染拡大を受け「今や欧州はパンデミックに相当する」と認定している。

開催期間中

白日会の開催は3月19日の専門家会議の結果を受けた政府方針と美術館の結果待ちとなった。専門家会議では中止要請の文化イベントから美術館は除外しても良い可能性があるとの意見もあり報道もされてもいた。3月18日に初日を迎える白日会は会期中の休館解除を待つこととなった。美術館の16日以降の臨時休館の延長は1日毎の延長発表であったので、問い合わせと苦情が殺到した。正式には発表されて無かったが休館延長の情勢は日増しに濃厚となっていた。白日会は美術館に内部閲覧会の案を提案し了承された。感染症対策を行いつつ入館者の住所氏名連絡先を提出する条件にて、3月25日～30日の間に、出品者と特別な関係者のみ内部閲覧会を行うこととなった。3月26日に美術館は当面の間休館を延長すると正式に発表した。また、出品者と招待者へは状況の変化や対処に関する葉書通知やホームページでの情報公開をその都度行った。3月26日にプロショット版WEB動画の為の撮影が行われた。

3月23日、小池都知事は「ロックダウン」という言葉を持ち出し「オーバーシュート」が発生しかねないと警告、24日東京五輪延期決定の翌25日、感染爆発の重大局面と強調し、週末の不要不急の外出自粛を要請した。同時に「3蜜（密閉・密集・密接）（9日の専門家会議の3条件と同様）」を避けるよう呼びかけた。日本国内の感染者数は3月終盤以降に急増、東京都では4月4日から1日の感染者が100人を超え、4月中旬まで100～200人で推移を続けた。それまで開催を進めていた他団体の都美術館での新春展は中止せざるを得なくなった。

▲ 展示を終え、休館解除を待つ会場

開催終了後

結果的に、第96回展本展の一般公開は叶わなかったが、内部閲覧会の開催、目録、図録の発行と、全作品の映像発信、ホームページのWEBギャラリーによる発信をもって、第96回展は「開催」した。この準備から開催期間中その後も通じて、白日会からの感染者の情報は寄せられなかった。

白日会本展終了後、搬出日にあたる4月1日には、安倍首相が布マスク2枚の全戸配布の方針を出した。搬入開始時点での首都圏の電車ではおよそ6割のマスク着用率であった。同日の専門家会議では「オーバーシュート（感染爆発）は起きていないが、医療供給体制が逼迫しつつある」として医療崩壊の懸念を示した。

4月7日、安倍首相は、東京都や大阪府など7都道府県を対象に5月6日までの期間で「緊急事態宣言」を発表し、人人接触の「最低7割、極力8割」を減らす目標を掲げ、国民に外出自粛などの徹底を呼び掛けた。

第96回白日会展本展は、未知的な新型感染症の上陸と拡大、その社会的さらには世界的な動性が変化していく佳境の中での具体的な開催準備と開催期間中の対応を行うことになった。この第96回展本展に続く名古屋巡回展は状況を鑑みた中部支部の総意にて3月末に中止を決断、大阪巡回展は近鉄百貨店全体での緊急事態宣言後も大型集客イベントの中止の継続となり開催に至らなかった。なお、豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―にて18名の特別巡回展のみ会期を延期して開催された。

第96回展の確認事項と第97回展に向けて

第96回展のような社会的非常時の中での開催、あるいは縮小、延期、中止に関する指針について、10月30日、国立新美術館3階研修室にて、絵画部と彫刻部の常任委員打ち合わせ会を行い、11月15日、上野の精養軒にて行われた常任委員会での討議、総会での承認を経て、下記を展覧会開催に関する白日会全体としての方針をあきらかにした。

白日会は「白日会定款　第6章　展覧会」、「〈展覧会の時期〉28条　本展は毎年春に1回行うことを基本とする。」を前提としながら、毎年春の本展の開催を目的とし、如何なる事態に関わらず、毎年の展覧会開催とそれに伴う事業計画を遂行するものとすることを第一義とした。しかし、不可避的な内外の非常事態により、やむなく全面的あるいは部分的な、中止や延期、縮小となる場合がある。このような非常事態への対応が緊急であった場合、会長（会長と副会長）を中心とした常任委員

で開催方針の意思決定を行う。なお、本展開催が中止や延期や縮小となった場合でも、年間運営の全体経費は発生することを確認し、開催の中止や延期、縮小が生じても、在籍者及び一般出品者への会費・記名料・出品料等の返還は原則として行わないことを確認した。（第96回展の場合、美術館の展示スペース使用料返却金は、全出品者と招待者への図録進呈にてほぼ同額を相殺）

そして、本第96回展は、絵画部と彫刻部とそれぞれに異なるベストの方針を採ったが、それぞれに結果は正解であったということと、白日会全体として第96回展は開催され、また先人が築き上げてきた連続した本会の開催歴に穴を空けなかったことを喜ばしく思うという旨を会全体の総意とすることを確認した。

その上で、第97回展は絵画部と彫刻部共にあくまで「通常通りの開催」に向かいつつ、感染症対策を講じた上で、状況を鑑みながら付帯事業の中止、延期、縮小を立案するという方針となった。また定款の「非常時における開催」を細則として整備する案も挙げられている。

最後に

以上を、白日会の第96回展の報告といたします。それと共に、今回は未知の状態での白日会の決断と行動についての経緯と結果の報告であり、それ自体の評価は、その時点での、直後での、また5年先や10年先、さらにそれ以後の視点により違うことと思います。また会内の立場や個人の見解の違い、さらに外部では別の見解を持つことでしょう。拙文は、それぞれの立場の視座を得る材料として参考となればと記しました。また、このような未知の、しかも健康や生命の危険さえある状況において、多くの在籍者や出品者、関係者方々がそれぞれの立場においてなされた努力の証と共に、後世の参考となる記録になれば幸いです。

会期中の特別企画

一昨年に逝去された深澤孝哉元副会長の特別陳列10点が第5室に陳列された。

▲ 第5室に展示された深澤先生の遺作展示

また3月18日の初日に合わせ、WEB動画「伊藤清永先生を語る」の続編「伊藤清永の名品を前に」が発信された。

巡回展報告

◆名古屋展、関西展はいずれも中止

◆特別巡回展

第8回白日会大型選抜展

伊藤清永と白日会

令和2年10月18日(日)～11月23日(月)

豊岡市立美術館―伊藤清永記念館―

※当初は6月27日(土)～7月26日(日)の会期を予定していたが、感染症対策により右記の通り延期開催された。

▲10月18日(日)に行われた池田良則常任委員の作品解説会

選抜展報告

◆白濤会展　令和2年6月

あべのハルカス近鉄本店(準公式選抜展)

◆明日の白日会展　令和2年8月

日本橋髙島屋（公式選抜展）

◆三越会員選抜展　令和2年12月

日本橋三越本店（公式選抜展）

白日会展についての掲載文

■第96回展YOUTUBE動画掲載文

（プロショット版）

第96回白日会展を終えて

中山忠彦

第96回白日会展は、新型コロナウイルス感染症対策の為に美術館が休館延長となり、一般公開はかなわなかった。この非常事態の中で開催に向け尽力された会員他関係の皆さんに感謝する。

休館中の美術館にて、自作と対峙した出品者は無言の壁面から多くの教えを汲み取ったことだろう。かつて芸大教授時代の安井曾太郎先生は、教室の学生の背後に立って無言の姿勢を長く保った。その間学生達は冷や汗ながら先生の教えを

汲み取ったと仄聞する。自ら今後への指示を得た皆さんも、またとない好機に恵まれた筈である。その意味でも今回の白日会会場は、まことに得難い幸運だった。

白日会が近年取り組んできた映像制作により第96回展が公開されることとなった。非常時における開催方法の一つであると考える。出品者と視聴者の糧となれば幸いである

※本稿は原文の掲載です

◇◇◇

第96回白日会展　受賞者推挙者一覧

特別賞

内閣総理大臣賞　曽　剣雄（絵画）愛知
文部科学大臣賞　福井　欧夏（絵画）東京
損保ジャパン日本興亜美術財団賞　吉成　浩昭（絵画）東京
中沢弘光賞　五月女　政巳（絵画）栃木
富田温一郎賞　伊勢田　理沙（絵画）佐賀
吉田三郎賞　彫刻部開催中止のため受賞者なし
伊藤清永賞　三澤　忠（絵画）東京
平松譲賞　池田　良則（絵画）京都
八咫烏賞　推挙回展
沼田　敏　46回展（絵画）神奈川
伊藤　紘美　46回展（彫刻）秋田

会賞

白日賞　植野　綾（絵画）熊本
（副賞クサカベ賞）
白日賞　川畑　太（絵画）奈良
（副賞ホルベイン賞）
準会員奨励賞　柴田　治（絵画）宮城
会友奨励賞　丸山　一夫（絵画）新潟
（副賞平澤篤賞）
一般佳作賞　畔田　桃子（絵画）熊本
（副賞マツダ賞）
一般佳作賞　有川　利郎（絵画）埼玉
一般佳作賞　大根田登美子（絵画）栃木
一般佳作賞　河野　建作（絵画）千葉
一般佳作賞　中村　成代（絵画）三重

法人寄託賞

梅田画廊賞　宇田川　格（絵画）埼玉
アートもりもと賞　植野　綾（絵画）熊本
関西画廊賞　大沼　紘一郎（絵画）東京
大宥美術賞　白田　彩乃（絵画）神奈川
美岳画廊賞　真島　柊（絵画）東京
オンワードギャラリー賞　吉住　裕美（絵画）埼玉
ギャラリー大井賞　朝日　夏実（絵画）大阪
瀧川画廊賞　久保　尚子（絵画）東京
ギャラリーアーク賞　佐藤　陽也（絵画）東京

●会員推挙

【絵画】

伊勢田　理沙　佐賀
植山　初枝　長崎
大沼　紘一朗　東京
小川　八行　埼玉
柴田　治　宮城
正田　みどり　千葉
須藤　克明　岡山
髙塚　紀江　静岡
津絵　太陽　東京
平野　文子　埼玉
藤原　光　岡山
牧野　千佳子　愛知
向井　正義　広島
山本　正子　茨城
吉岡　真紀子　岡山
吉田　直未　京都
吉田　久子　茨城

●準会員推挙

【絵画】

浅尾　順子　東京
朝日　夏実　大阪
植野　綾　熊本
大塚　恒子　栃木
沖本　美保　千葉
小野　彩華　神奈川
小野　月世　東京
栗原　政幸　千葉
黒木　ゆり　広島
新藤　則子　静岡

高木　大　愛知
田中　明　滋賀
田中　裕子　千葉
友清　大介　東京
中西　令　大阪
中道　佐江　京都
中村　富志男　北海道
西脇　恵　京都
原　太一　千葉
藤井　佳奈　熊本
星野　典子　群馬
前田　知恵　千葉
丸山　一夫　新潟
三浦　隼高　奈良
村上　豊　兵庫
森　真一　兵庫
八木　誠一　静岡
横山　文代　北海道
吉間　春樹　千葉

伊藤　ひとみ　北海道
稲垣　晴代　東京
岩本　将弥　福岡
内山　みち　三重
大窪　ひとみ　広島
太田　正弘　静岡
大塚　麗子　愛知
大根田　登美子　栃木
帶金　正子　静岡
神尾　昌義　静岡
亀井　輝男　愛知
川畑　太　奈良
木下　至弘　兵庫
久保　敦嗣　埼玉
河野　建作　千葉
五野　成之　長野
佐藤　真衣子　東京
篠田　寛江　三重
志村　祥子　静岡
妹尾　均　岡山
多賀谷　寛　宮崎
長　和義　栃木
出水　翼　大阪
道本　勝　和歌山
徳永　敏　鹿児島
長尾　圭子　千葉
中島　あけみ　東京
長友　洋子　宮崎
中村　成代　三重
中山　喜裕　岡山
西川　誠一　熊本

蜂須賀　仁　愛知
平松　周　愛知
福澄　明美　三重
星野　清和　群馬
真島　柊　東京
的崎　裕子　岡山
宮崎　毅　愛知
宮本　典子　静岡
毛利　由美子　滋賀
森重　美香　鹿児島
山田　素子　東京
山本　周　大阪
横川　みどり　愛知
吉田　明　静岡
吉田　恵　大阪
吉村　則子　長崎

●会友推挙

【絵画】

相川　佳子　神奈川
蒼井　利華　神奈川
畔田　桃子　熊本
阿部　申次　兵庫
新木　邦秀　新潟
有川　利郎　埼玉
有竹　敏視　三重
井口　和夫　大阪
井口　民子　神奈川
石井　直美　山口

特別賞審査員

内閣総理大臣賞　瀧　悌三先生
文部科学大臣賞　土方　明司先生

八咫烏賞　受賞者の言葉

第九十五回記念展より新設された八咫烏賞（在籍50年）。受賞者の皆様へ、受賞にあたり思い思いの内容でと、ご寄稿をお願いしました。96回展は絵画、彫刻それぞれ一名の方が受賞されました。

沼田 敏（会員）　46回展　会友推挙

「受賞にあたって」

八咫烏賞を頂き有難うございます。二六歳の時、川口栄先生に勧められて初出品したのが第三六回展でした。その十年後に再出品し、第四六回展で伊東屋賞を受賞、会友に推挙されました。それから五十年も出品を続ける事が出来ましたのは、皆様のご指導と励ましのお蔭と感謝致します。

搬入会場で「いい作品、出来たかね！」と声を掛けて下さった方、展示会場でご批評頂いた諸先生方、パズルの様な展示に苦労した事など、旧都美術館時代の事が懐かしく思いだされます。

神奈川支部の研究会では、平松譲先生、柳沢淑郎先生、野田弘志先生、中山忠彦会長、深澤孝哉副会長、の講評を受け研鑽を重ねて参りました。この研究会は現在も重要な支部活動のひとつとなっています。なお、深澤孝哉先生とは同時期に支部に参加させて頂き勉強させて頂きましたが、昨年の訃報、驚き残念です。

今年こそは満足な作品をと制作を続けて来ましたが、いまだに未熟者です。「絵描きは万年三五歳…」と、川口栄先生がよくおっしゃっていました。時は早く過ぎて行きます、体力が落ちてきましたが情熱を失わずに描き続けたいものです。

第九六回展はコロナ禍の中、開催に向けて奔走された方々に感謝致します。ユーチューブの映像を何度も見ました。この難局を乗り切ろうとする若い熱意を感じ、白日会の更なる発展を確信致しました。

伊藤 紘美（会員）　46回展　会友推挙

「八咫烏賞を受賞して」

この度は大変嬉しい賞をいただき心から感謝申し上げます。

私は大学時代、白日会彫刻部門の草創期の会員でもあった木村珪二先生に彫塑を習い卒業後は郷里の秋田に戻って教職につきました。まだ若く、どこをとってみても駆け出しの未熟者でしたから、白日会に出品して引き続き先生のご指導を仰ぐのはごく自然の成り行きでした。

初出品が1968年44回展、24歳のときでした。ところが、間もなく1971年に木村先生が亡くなられ、突然のことに目の前が真っ暗になったことを覚えています。が、幸いにもその後は同窓の諸先輩に暖かい言葉をかけていただき、その作品から学び、背中を追いながら続けてくることができました。

年齢的には青年時代から壮年まで人生の真只中を白日会とともに歩いてきたことになります。その間は仕事の多忙、家族の世話、自身の病気など、数回は出品できないこともありました。

しかし、およそ50年に渡る出品リストを辿って見ますと、自然や社会における自身を含めたその時々の人間の姿に迷い、模索し表現してきたということがわかります。

現実の「人」から離れず、「人」について思考をめぐらして行きますと、古今東西の美術や宗教もまた身近なものになりました。自己満足の感がありますが、この50年余り、人間の表現に取り組んで歩いてきて本当に良かったと思っています。

今や、コンピューター全盛の2020年代に入り、時代が大きく変化していく中で、日本はもちろん、世界の人間像がどう結ばれていくのか、若い方達の表現も拝見しながら今後も制作を続けて行きたいと思っております。

※会報発行の遅れにより年をまたいでしまいましたが、令和2年にご寄稿いただいたご文章のまま掲載いたします。

受賞作品紹介

特別賞

内閣総理大臣賞　曽剣雄

メッセージ 192019
F100

文部科学大臣賞　福井欧夏

うたかたの森で
P100

損保ジャパン日本興亜美術財団賞　吉成浩昭

正午
F100

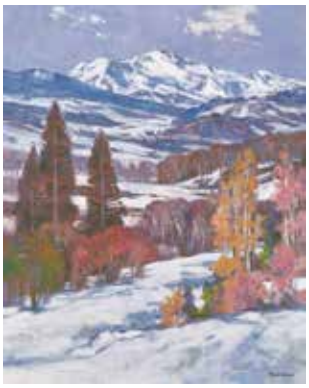
中沢弘光賞　五月女政巳

空焼け
F100

富田温一郎賞　伊勢田理沙

君をのせて
F100

伊藤清永賞　三澤忠

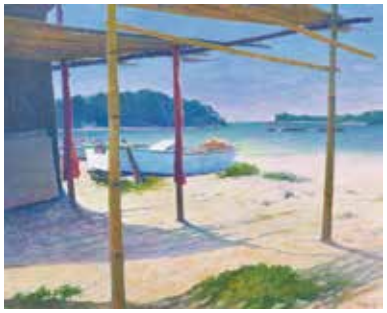


暖冬 2020
F100

平松譲賞　池田良則

岬の礼拝堂
P100

八咫烏賞　沼田敏



葉山の海岸
F100

白日賞（副賞 ホルベイン賞）
川畑 太

風の方向
F100

白日賞（副賞 クサカベ賞）
アートもりもと賞
植野 綾

みちなるせかい
130 × 324㎝

一般佳作賞（副賞 マツダ賞）
畔田 桃子

ほっとしている
F150

会友奨励賞（副賞 平澤篤賞）
丸山 一夫

黒い静物
F100

準会員奨励賞
柴田 治

雨あがりの水面に
水彩　F80

一般佳作賞
河野 建作

冬の陽
水彩　P100

一般佳作賞
大根田 登美子

木漏れ日
F100

一般佳作賞
有川 利郎

小夜中の夢・苔月
M100

法人寄託賞

関西画廊賞
大沼 紘一郎

境界
P100

梅田画廊賞
宇田川 格

かえり道
F100

一般佳作賞
中村 成代

午後の小憩
F100

大宥美術賞　白田彩乃

昼のひととき
F130

美岳画廊賞　真島柊

1998.10.4
S60

瀧川画廊賞　久保尚子

garden '20
P120

オンワードギャラリー賞　吉住裕美

Park
P130

ギャラリー大井賞　朝日夏実

Lycoris
F100

ギャラリーアーク賞　佐藤陽也

天照す
194 × 520㎝

第96回展より白日会の賞状が新たに変わりました。

元々この賞状は第90回展（平成26年）まで使用していたものですが、その後表記上の理由により業者の筆耕による賞状に変わりました。ところが95回展で八咫烏賞を受賞された乙黒久先生の会報の寄稿文により、広本了先生（明治32年～昭和55年　第19～56回展）の墨跡であることが明らかになりました。そこで、もう一度この味わい深い広本先生による賞状に戻せないかと検討しました。デジタル加工により表記を修正し、元号も令和と改め、白日会の歴史を引き継いだ賞状として復活いたしました。

追悼のことば

この度は、白日会にとって大きな存在でありました会員の方々が多くご逝去されました。ここに故人に所縁の深い会員の皆様より追悼のことばを寄稿していただきました。

■深澤孝哉（最高顧問・前副会長）

会員推挙47回展　令和元年10月9日逝去　享年82歳

中山忠彦会長による深澤先生の追悼文は、第96回白日会展の目録・図録をご参照ください。（ホームページでは、第96回展目録ＰＤＦとＷｅｂギャラリーの第96回展・第5室・追悼文の項より参照できます。）

追悼　深澤孝哉先生

前静岡支部長（平成22～令和元年）　青島紀三雄

あの日、令和元年十月二日は忘れられない日となりました。静岡支部展初日の朝、深澤先生をＪＲ静岡駅へお迎えに行きました。改札に現れた先生は、いつもの様に軽く手を挙げて「オッ…」と一声。三澤先生が少し遅れての合流となり、三人で会場へ向かいました。その日の夕方、近くのホテルでオープニングの懇親会があり、高梨先生をはじめ、支部会員で楽しいひと時を過ごしておりました。深澤先生の挨拶は、いつもの様に少し長いお話でしたが、突然、大きな音がして振り向くと、先生が昏倒、後頭部を壁に強打。信じられない状況に皆が駆け寄った時、

「手が少し痺れる……」

私が聞き取れた最後の言葉でした。

救急車で運ばれ、意識不明のまま一週間後に脳出血の為、帰らぬ人となりました。先生の終焉の地が静岡、白日会の皆さんに囲まれていた事、入院先の静岡病院は私の自宅から五分の所にあり、関係先への対応、連絡等がし易く、非常に助かりました。

実は倒れる二～三分前、私は何気なく手にしたスマホで、シャッターを押しました。これがお元気な先生の最後の、たった一枚だけの写真になろうとは知る由もありません。様々想うに、何か深いご縁を感じるのです。

先生には三十年余りお世話になりました。特に私が、十年間静岡支部長を務めさせて頂けたのは、先生のご協力、ご指導があったからです。長い間、支部発展の為にご尽力を頂き、御礼の言葉しかありません。

◀文中の静岡支部展の懇親会で青島氏が撮影した深澤先生

ご葬儀もなく、寂しいお別れになりましたが二週間後、お身内の伊藤由美子さんが静岡までお出掛け下さる事になり、先生ゆかりの方や有志十五名が集い、さやかな「深澤先生を偲ぶ会」を開く事が出来ました。先生の遺影を囲んでの集いは、賑やかがお好きだった先生が喜んで下さったと思っております。私は一周忌を過ぎた今も、大きな喪失感を拭い去れないでいる状態です。白日会は最高の顧問を失いました。

◇◇◇

■伊藤利行（顧問）

会友推挙26回展
会員推挙27回展
令和2年1月11日逝去
享年94歳

追悼 伊藤利行先生

寺久保文宣

伊藤利行先生は、長年連れ添われた奥様と齢50を超えたコンゴウインコを先に見送られ、自宅でのお一人暮らしの中、令和2年1月11日、94年の生涯を静かに閉じられた。

▶『裸婦』　第75回記念展　内閣総理大臣賞

先生は大正15年に千葉県の老舗絵馬工房の家系に生まれた。大戦末期に徴兵され、カメラ少年の故に航空写真兵となったが、既に練習機も無く、房総先端の要塞建設の過重労働と栄養失調で入院、死地をさまよいながら終戦を迎えた。先生は終生軍隊的なものを嫌われた。戦後、芸大図案科に学び、伊藤清永主宰のデザイン事務所に在学中より勤務、その縁で第26回白日会展（昭和25年・一九五〇年）に初出品された。後に大手繊維メーカーに就職、デザイナー職と並行して画業に励み、在勤中に念願の西欧留学も果たされた。白日会、日展での発表を中心に、主に裸婦を描き続け、常に観た物の手ごたえある実在感を求め、理知に基づいた重厚な作品を描かれた。先生のご指導は、絵も運営にも、いつも一歩引いた立ち位置から、静かではあるが信念に基づくご意見を発せられる風であった。日展参与(旧)、白日会常任委員を経て顧問を勤め、在住地であった埼玉県の美術振興に長年に渡り貢献された。

人あたりはやさしくおだやかであるも、とても芯の強い先生であった。紳士的で学求肌、所属在籍はしても群れをなさず徒党を組むことを好まず、高潔孤高の人生を歩まれた。私は先生に「大正人」の持つ、気品と豊かさと強さ、そして悲しみと孤独をも重ね想う。

通称「リコウ先生」と皆に慕われた伊藤先生のご冥福をお祈りしつつ、拙文を捧げたい。

※埼玉県美術家協会会報での追悼文を補筆し、白日会会報に転載。

◇◇◇

■ 犀川愛子（会員）

会友推挙44回展
会員推挙49回展
令和2年9月14日逝去
享年76歳

犀川愛子さんを偲んで

伊藤晴子

昭和四十九年第五十回白日会展に私は十六年ぶりに出品しましたが、犀川愛子さんは既に前年会員に推挙され、持ち前の明るさと行動力で会の事務所や裏方のお仕事を率先してやっていらっしゃいました。

平成十四年第七十八回展では内閣総理大臣賞を受賞され、日展にも連続入選されて、平成二十六年には日展会員となられました。

三十年程前、風景画を勉強したいので写生に連れて行ってとお願いした所、全ての写生旅行に誘って下さいました。春は花のある風景、五月は上高地、夏は夏山、冬は富士山と大勢で又は二人で沢山の写生旅行に出かけました。同じ歳ということもあり本当に親しくさせて頂き、春秋に我が家にバラが届いたよと電話すると自転車で駆け付け、夜中まで一緒に描いたものです。

唯一のご家族であるお母様の介護の為、福岡に帰られると聞いた時は、何十年も東京で暮らし、画家としての活躍を順調に伸ばしていらしたのにと心配しましたが、彼女の素晴らしい人徳ですぐに沢山のお弟子さんも出来、故郷で活躍の場を作られ、作品も自分の動ける範囲の中に新しいモチーフを見出し立派に発表を続けてこられていました。

そんな犀川さんを病魔が襲い、数年間の闘病生活を送られました。ある時医者から一年後の生存確率は五十パーセントだと言われ、今までお世話になった方々への御恩返しに回顧展の開催を考えたそうです。お弟子さん達サポーターの方達の献身的な協力で二〇一八年十二月福岡で立派な回顧展が開かれました。

小柄な体にいっぱいのエネルギーを持ち、百メートル先でも聞こえそうな朗らかな笑い声、いつも白日会や周りにいる人々の為に気を遣い行動していた犀川さんを、私達は忘れることはありません。

犀川愛子さん、どうぞ安らかに！

▲「初冬・耶馬渓」　第78回展　内閣総理大臣賞

◇◇◇

第96回展より平澤篤賞（副賞）の新設

平成31年（２０１８）に逝去された平澤篤会員の奥様、平澤昌子様からのご寄付にて、平澤会員が目指した写実絵画の後継の応援にと、第96回展から「平澤篤賞」が新設されました。（一般と会友を対象とした「会賞」の副賞として）第96回展は受賞式・懇親会が中止となりましたので、このたび昌子様より副賞新設の挨拶をご寄稿頂き紹介といたします。なお平澤篤会員は当会の若手写実作家の草分け的存在でした。ここに、中山会長をはじめとする平澤篤会員への追悼文を併載いたし、哀悼の意をあらためて表したいと思います。

■平澤篤（会員）
会友推挙63回展　準会員推挙65回展
会員推挙66回展　内閣総理大臣賞91回展
平成30年10月10日逝去　享年57歳

永遠の記憶

内閣官房ホストタウン事業 国歌アドバイザー・二期会会員
平澤（新藤）昌子

２０１８年10月10日…あの日の抜けるような青空、眩し過ぎる陽光を一生忘れません。絵画と音楽と分野は異なっても「美しいもの」への鋭い審美眼や価値観を共有し、表現者として共に生きた30年を誇りに思いながら、コロナ禍の日々におります。自身の活動のメインを白日会に置き、１９８７年に初出品後、２０１８年春の白日会展まで、一度も欠けることなく、大作を発表してまいりました。一切の妥協なく「平澤篤」の人生を生き抜いた姿はお見事という他なく、静かに神さまの御許に召されました。日本を代表する美術団体「白日会」の進むべき方向に心を配り、より良き方へという使命感や気概に溢れている一方、後輩への眼差しは常に暖かく、親身になって相談を受けている彼の姿を思い出し、遺族として、次世代の才能ある方に絵の具代をプレゼントしたいという想いが浮かびました。歴史ある白日会の諸先輩方と共に、夭折した写実画家「平澤篤」の名前を遺していただき、「副賞」の設置に対し、心より感謝いたします。

▶「alla Veneziana」　第94回展

ニコライ堂で営まれた葬儀には、白日会の多くの皆さまにご参列賜りました。この場をお借りして、衷心より御礼申し上げます。故、深澤孝哉先生のお姿もあり、75回記念展におけるミッションで、ご一緒にノルウェーを訪れたことは一生の思い出です。

遺作となった「alla Veneziana」が生まれた、最後のイタリア家族旅行での一コマ。フィレンツェのキアニーナ牛の名店で、オーナーのリノさんと息子さんと彼と私と娘とで肩を組んで、イタリア共和国国歌をうたいました。心底楽しんでいた屈託のない笑顔、満面の笑み…本当に愉快に笑っていた顔が思い出されます。愛する家族とのかけがえのない時間が、創作意欲の原動力でした。

1年後の同じ日…昇天した午後の空の色は、あの時と同じイタリアのazuroだったのです。

「現在は絶え間なく消えて行き、そして記憶の中で存在する」

生前、平澤篤に賜りましたご高誼に深謝申し上げますと共に、白日会の益々のご発展を祈念申し上げます。

◇◇◇

して、人間として如何に誠実に生きたかその痕跡を残し得たことである。これこそ画家冥利に尽きることではあるまいか。

この度の追悼演奏会で君の生存の証しは更に確かな記憶として私達に刻み込まれる。「芸術は常に音楽の形に憧れる」(ショーペンハウエル)と言われている。

望み得る最高のひとときを共に悦びたい。会場の一隅に君が身を潜めている姿が私には見えるに違いない。お悔やみは言わない。

お互い共通の幾年かを生かされたよろこびの時にハレルヤ。

◇◇◇

くそ重たいリュックを背に、軽やかに立ち入り禁止区域を飛び回る平澤さんでありました。デジタル・アナログ両方のカメラが詰め込まれたリュックは大変重たかったです。おそらく廃屋は見る人が見れば〝出る〟のでしょうが、平澤さんも私も幸い霊感はないのでスルー。とても有意義な1日でありました。平澤さん、私がそっちに行ったら案内よろしくお願いしますね！

◇◇◇

第96回展　総会概要

令和2年（2020）11月15日　16時～精養軒
会員31名の出席と会員205名の委任状により、以下のことが承認されました。
同日14時より行われました常任委員会を経て、96回展事業報告、96回展決算報告、97回展事業計画、97回展予算が承認されました。※会員には総会報告として別紙が郵送されています。以下決定事項を報告します。

副会長の選出について

山本眞輔常任委員（彫刻）斎藤秀夫常任委員（絵画）が正式に副会長に就任いたしました。

第97回展にむけて

第97回展は絵画部と彫刻部共に「通常通りの開催」に向かうという合意形成がされ、感染症対策を講じた上で、状況を鑑みながら付帯事業の中止、延期、縮小を立案するという方針となった。授賞式は、講堂を使用し、受賞者のみ（推挙者を除く）の授賞式とする案。懇親会は中止、公開クロッキー講座は延期、ギャラリートークは中止となった。

35歳以下の一般出品料無料について（97回展～99回展の期間）

コロナ禍で発表場所を失っているこれから世に出ようとする若手作家の応援を目的に、35歳以下の一般出品者の出品料について97回展～99回展の間を無料とする案が採択された。

審査員

先の常任委員会にて、97回展の審査員を決定しました。（常任委員は全て審査員）
絵画：　児玉健二　関口雅文　山本大貴
彫刻：　峯田義郎（顧問）　柏原花子　広沢邦子　小関良太

事業計画表

令和3年 2月	14日※	研究会（日展会館）※中止となりました
3月	17日～29日	白日会展（国立新美術館）※詳細は左記参照
4月	13日～18日	名古屋巡回展（愛知県美術館ギャラリー）
5月	31日～6月6日	関西巡回展（あべのハルカス近鉄本店ウィング館8階）
6月	2日～8日	近鉄選抜展（あべのハルカス近鉄本店タワー館）
7月	4日	研究会（日展会館）
8月	1日	総会（会場未定）
	日付未定	明日の白日会展（日本橋髙島屋）
9月	5日	研究会（日展会館）
12月	日付未定	三越選抜展（日本橋三越本店）

第97回白日会展スケジュール

会期：令和3年3月17日(水)～3月29日(月)　会場：国立新美術館2F（2A・2B・2C・2D）

3月7日（日）	搬入
8日（月）	搬入
9日（火）	鑑審査（入選・落選）
10日（水）	鑑審査（賞選定〔会〕・推挙）・発表事務
11日（木）	部屋割り・陳列準備
12日（金）	名札　/　作品移動
16日（火）	陳列・賞選定〔特・法〕・巡回展選定
17日（水）	初日・授賞式（美術館講堂）〔予定〕　/　選外搬出
23日（火）	休館日
29日（月）	閉会（15：00）　/　作品撤去
30日（火）	搬出　〔3月31日(水)　彩美堂業者搬出〕

展覧会記録 ―個展・主なグループ展

令和元年九月

吉成浩昭 個展　銀座 光画廊
広田 稔 展　横浜 ギャラリーミロ
高根沢晋也 絵画展　池袋 東武
小林聡一 油彩画展　松坂屋名古屋店
第67回 白日会 栃木支部展　栃木県総合文化センター
白日会 静岡支部展　静岡市民文化会館
中山忠彦 素描展 ―馥郁たる線の女神たち―　日本橋髙島屋
京都髙島屋　横浜髙島屋　大阪髙島屋

十月

沖津信也 個展　仙台三越
佐藤陽也 個展　銀座 光画廊
李 暁剛展　丹波市立植野記念美術館
第3回 長尾浩一 油絵展　渋谷 東急本店
第9回 白日会関西支部選抜展　ギャラリー大井
長坂誠展　日本橋髙島屋
長船善祐 油彩画展　鹿児島 山形屋画廊　大分 トキハ本店
第2回 皎の会　梅田画廊
井上慎介　小木曽誠　木原和敏　熊谷有展
児玉健二　関口雅文　寺久保文宣　広田稔
堀井聰　山本桂右　和田直樹
広田 稔 還暦展　広島 本住寺 with 佐藤陽也

十一月

第51回 白日会神奈川支部展　フェイアートミュージアムヨコハマ
小林聡一 油彩展　仙台三越
寺久保文宣 個展　銀座ギャラリー和田
アルナイルの会　大阪 ギャルリ VEGA
長船善祐 油彩画展　広島三越
池田良則展 Etude　京都 ギャラリー Create 洛

十二月

大山富夫展　銀座 画廊宮坂
山内大介 油彩画展　日本橋三越本店
長船善祐 油彩画展　静岡伊勢丹
峯田義郎・池川直・田原迫華 三人展　銀座 永井画廊

令和二年一月

第17回 浦田周社版画展 松阪屋静岡店
村山きおえ展　日本橋三越本店
久保尚子 油彩画展　八丁堀 美岳画廊
高根沢晋也 水彩画展　銀座 光画廊
Primary Colors
果醐季乃子 長谷川晶子 吉住裕美　日本橋髙島屋
長船善祐 油彩画展　仙台三越
池田良則展　国立 画廊岳

二月

山本眞輔展　日本橋三越本店
名古屋栄三越
白日会のメンバーによる 秀作絵画展　横浜そごう
濵本久雄 油絵展　小田急百貨店新宿店
寺久保文宣 展　埼玉画廊
山田郁子 個展　東京交通会館

三月

長船善祐 油彩画展　札幌三越
山口井筒屋
塚原貴之 油絵展　大丸東京店
阿部良広 展　京都 ギャラリー Create 洛

四月

長船善祐 油彩画展　長野 井上百貨店
徳丸 晃 空港展　宮崎空港ビル
白日会　京滋作家展　京都 ギャラリーヒルゲート

六月

岡田 髙弘 展　銀座 光画廊
第36回 大分支部展　中津市立小幡記念図書館
福井欧夏展　銀座ギャラリーアートもりもと

七月

長船善祐 油彩画展　日本橋三越本店
有田巧 フレスコ画展　松山三越
山本桂右展　香川 イノウエ商会
阿辺 隆 個展　大阪髙島屋
白日会 関西支部 小品展　銀座 光画廊

八月

塚原貴之 油彩画展　大阪ギャルリ VEGA
斎藤秀夫 油絵展　仙台三越
嶋中俊文展　京王百貨店
銀座ギャラリーアートもりもと
長船善助 油彩画展　福岡三越
第3回 莧の会　大阪髙島屋
中山忠彦《賛助出品》　池田良則　久保尚子
河野桂一郎　児玉健二　三箇大介　髙梨芳実
西谷之男　堀井聰　前芝武史　山本桂右　李暁剛
吉住裕美展　横浜 仲通りギャラリー
岡田髙弘 個展／遊帆の会　横浜ギャラリーミロ

九月

アトリエ21三人展　横浜髙島屋
高根沢晋也展　銀座 gallery 一枚の繪
宇田川 格 展　銀座 光画廊
寺久保文宣 油彩画展　日本橋三越本店
伊藤晴子展　日本橋髙島屋
京都髙島屋

十月

大友義博 ドローイング展　銀座 光画廊
木原和敏展　日本橋三越本店
長船善祐　油彩画展　広島三越
大分トキハ本店
第3回 皎の会　梅田画廊
井上慎介　木原和敏　熊谷有展　児玉健二
関口雅文　寺久保文宣　広田稔　堀井聰
山本桂右　和田直樹
伊勢田理沙展
銀座 ギャラリーアートもりもと
広田 稔 展　横浜 ギャラリーアーク
有田 巧 フレスコ画展　銀座 柳画廊

十一月

中谷 晃 油彩画展　阪急うめだ本店
長谷川晶子 展　横浜 ギャラリーミロ
第52回 白日会神奈川支部展
フェイアートミュージアムヨコハマ

※紙面の関係上、会員の個展及び主なグループ展のみの掲載となっておりますが、ご了承ください。ホームページでは白日会事務所にお知らせくださった在籍者（会友以上）の展覧会はすべて掲載しております。

ホームページの展覧会掲載について

白日会ホームページにある在籍者（会友以上）の展覧会情報に掲載をご希望の方は、白日会事務所まで展覧会のDM等を郵送またはメールにてお送りくださいませ。

お知らせ

春の研究会は中止となりました

1月7日に発令された政府の緊急事態宣言を受け、会長、副会長の協議により、2月14日（日）に予定しておりました春の研究会をはじめとする、本部・支部の研究会を全て中止することを決定いたしました。

研究会にて学びの機会を期待されていた方々には大変残念なお知らせではありますが、個々に励み、白日会展への力作の出品をお待ちしております。

事務所の業務時間の短縮について

現在、感染症拡大防止のため、白日会事務所の業務時間を短縮しております。お問い合わせはできる限りメールにてお願いいたします。

お電話やFAXの場合はご返答にお時間を頂く場合がございますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

編集後記

会報は夏の総会報告も兼ねます。この夏の総会が新型感染症を考慮して延期となり、11月15日に、秋の総会と合同となりましたので、例年9月の発行が1月となりました。大変遅くなりましたことをお詫び申し上げると共にご了解ください。

昨年よりカラーに刷新された会報は、それまでの掲載情報を整理しつつ、95回展記念展特集として伊藤清永前会長の特別陳列、八咫烏賞受賞者から寄せられた文章、百周年に向けて白日会アーカイブス等を新たに加えました。

第96回展は、新型感染症の上陸と蔓延の中での開催という未曽有の事態となりました。この2020年の新型感染症と世界的な対応が、後世にどのような評価を受け、また一般的な受け止め方として定着するのかはもっと先の話になるだろうと思いますが、本会報では通常ではないこの状況下での開催の記録と姿勢を、後世の参考の為にも残せればと思い記しました。

今回は追悼文が多くなりました。重量級の会員のご逝去が相次いだことは、大変残念でなりません。深澤孝哉最高顧問、伊藤利行顧問、犀川愛子会員、伊勢崎勝人会員、そして平澤篤会員に、哀悼の意を表したいと思います。

尚、追悼文の掲載に関しては、過去の会報では内閣総理大臣賞の受賞者や、長年に渡り白日会に多大な貢献をされた方々に対して追悼文が掲載されており、この度はその方向を踏襲いたしました。

皆様のご健康をお祈りしつつ、第97回展の無事開催を祈念いたします。

第31回白日会展目録表紙の八咫烏

発行　白日会事務所
寺久保文宣　阿辺隆　小河美智子
神山晃一　久保尚子　吉田純子
印刷　六光社